

本時のねらい

・言いたいことをきちんと伝えるためには、「だれが、何を、いつ、どこで、どのくらい」などを伝えないといけなことを理解する。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・タブレットを使うと、視覚的に分かりやすいため、意欲的に学習できる。
・電子黒板を活用することで、目線を上げて、集中して授業を受けることができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・電子黒板 ・Sky Menu Class の発表ノート及び資料置き場

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	○自立活動 ・ストレッチ体操をして、気持ちを切り替える。 【写真 1】 ・簡単な点つなぎをすることで、集中力をつける。	・ストレッチ体操の動画（NHK for School）を見ながら、音楽に合わせて、正しく楽しくストレッチに取り組むことができる。
展開 (30 分)	○3 年国語科「ききたいことを考えて、しつもんしよう」に取り組む。 ・教科書の「きちんとつたえるために」を通して、なぜ話が食い違い、思ってもいない出来事が起きたのかを考える。 ○相手に伝えたい図形を描く。 ・教員からの問題を絵に描いて、練習する。 【写真 2】 ・相手に伝えたい図形を描く。 ・きちんと伝えるために大事にすることをまとめる。【写真 3】 ○図形を相手に伝える。 ・相手に伝わるように工夫しながら、図形の説明をする。 ・うまく伝わったのかを確認する。	・電子黒板に考えたことを直接書き込みながら、まとめていく。 ・ペン機能で発表ノートに描いていくことで、簡単な操作で何度も書き直すことができる。 ・教員は電子黒板を活用し、同時に児童はそれをまねて、発表ノートにまとめていく。 ・児童の説明を、教員が聞き、持参したタブレットに図形を予想して描く。 ・児童の意図することが相手に伝わったかを確認させるために、教員がタブレットに描いた図形を撮影しておく。
まとめ (5 分)	○ふりかえり ・より正しく伝えるには、どうすればよかったのかをふりかえる。	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1 動画を見ながら、体操をしている様子

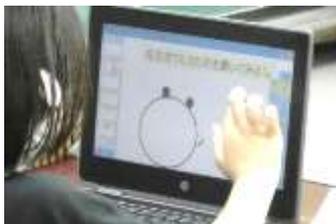


写真 2 ペン機能で、図形を描いている様子



写真 3 電子黒板を確認しながら、大事なことをまとめている様子

児童生徒の反応や変容

ICT 機器は視覚効果があるため、児童の集中力が高まったり、興味を持って学習できるようになった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

児童が説明から予想して自分のタブレットに図形を描く際、図の挿入やスタンプを使うことで、考えを整理しながら進めることができる。描く様子を電子黒板で投影することで、どの部分で児童のつまずきが見られるかを捉えやすい。